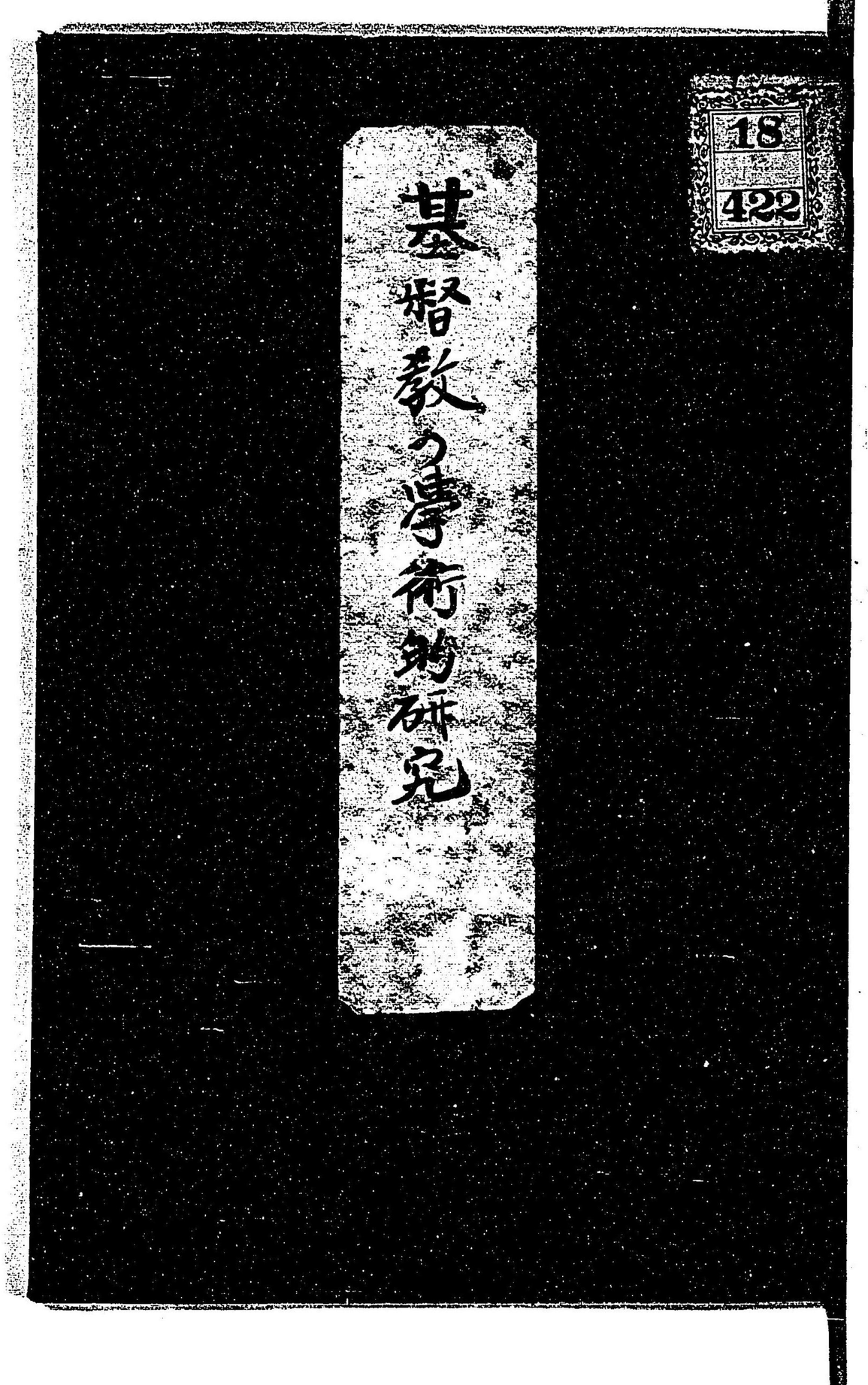

18
422

020491−000−4

18−422

基督教の学術的研究

マクレイン／著

M27

ABI−0302

18-422

基督教の學術的研究

米國神學博士哲學博士　マクレイン五
米國神學士　マクチヤ
和泉彌六　合譯

人は宗教的動物にして神に關する感情を賦與せられたる者なり國民たると或宗教上の信仰、禮拜の儀式及び來世の希望等を有せざる者としてはあるべからず是即ち人の宗教的性質の證跡たるのみならず宗教的生活の要素なりとす

宗教的性質の正當なる發達も吾人の熟知せる凡ての生命及び其發育の諸原則に從ひ相互依立し且適當なる包圍に合致して發生するものならざる可らず而して其最上の發達も進化の法則に依り適當にして且つ眞正なる包圍と正しく合致せる結果ならざる可らず故に最も眞

正なる宗教なる者は人と神との最も完全なる合致を保ち且つ個人及び社會を完全なる道德的品性に導き最上無二なる道德的善に達せしめ以て人を正當に發達せしむるものならざる可らず

爰に一の宗教あり其起原は東洋國なれども西洋諸國に行はれ現今は全世界に蔓延しつゝあり是絶對的に眞正の宗教なりと主張するものなり而して此宗教は數多の人種に適應したる事を證明するのみならず一個人の品性行爲の上に大なる變化を生ぜしめ多くの社會を純潔高尚にし且つ世界の精神をして善良に向はしめたるものにして凡て他の宗教に優りて學術的研究の價値あるものなり是即ち基督教なり其起原は開基者たるイエスの性質言行に含有せられ且つ新約聖書に記載せらるゝが故に之を研究するには勿論文學的及び歷史的の批評によらざる可らざる事はハクスレー氏の云ひし如し曰く「イエスの言

行に關する問題は實に學術上の問題にして歷史家と文學批評家の用ゆる方法によらざれは解釋すべからざるものなり」と

然れども此研究法は本書の範圍内にあらざれは專門に之を研究するものに全く讓りて論ぜず此書の採用せんとする研究法は歸納法にして即ち顯象を觀察して其根源に溯り以て其根底にある終極の事實を査定するにあるなり

此法によりて基督教を研究すると文學的及び歷史的の方法によるとの肝要なる差異は一の例を以て説明する事を得べし文學的及び歷史的の批評家は問ふに「イエス及ひ使徒等はイエスを信ぜば救はるべしと教へたりしや」との言を以てすべしと雖も本書に用ひんとする法によれば則ち「イエスを信ずるものは自己の救はれたることを知るや否や」換言すれば「個人の救主としてイエスを信ずるときは之によりて罪

に勝ち義を行ふの力を生ずるや」猶詳言すれば「人の罪惡に勝つ事を得るはイエスに於ける信仰によるや」と問ふにあり

ハクスレー氏曰く「科學は一切福音書の批評をなすと能はざるものにして其歴史中にある記載の信僞を證せんとするも全く不適當なるものなり」と是即ち科學上より來る基督教攻擊を排除するものなれとも歴史學及社會學は下章に見ゆる如く基督教の記載及要求の眞實なることを證する許多の證據を與ふるものなり

學術に於て用ゆる歸納法を道德上及社會上の顯象に應用せば基督教の勢力と位置を査定することを得べし今日世界中に目にて見、手にて觸れ得る或る一定の形狀を以て基督教を表彰する所の顯象あり教會堂あつて其尖塔は天を衝き其鐘聲は人を禮拜式に招き多くの男女は其教會堂内に集り皆同一の信仰、同一の愛情及同一の希望によりて互に

相引かるゝなり而して莫大なる金は特殊の目的の爲めに寄附せられ多くの會社ありて之を使用し以て全世界現在の諸會社を維持するのみならず益同種の會社を新設せんとす特に貧人を惠まん爲めに設けられ無智者を教育し力弱きものを助けんとするの會社あり此の如く目に見ゆる顯象は人心中にある信仰及ひ感情より顯出したるものなり人をして其尖塔天を衝く所の會堂を立てしめたる信仰と人をして他人を益せん爲めに慈善義捐をなさしめたる感情とは蓋し神の性質、愛情、意志等に關する教理によりて喚起され感激せられたるものなり而して其教理とは基督教の講壇より宣傳され基督教信條の中に含有さるゝのみならず主として基督教經典に記載さるゝものなり故に今茲に本書に於て解説せんとする三ケの問題あり曰く基督教とは何ぞや曰く基督教は人間の爲めに何をなすや曰く基督教は未來に何を約

束するや」と人々の心中に存在する無形の基督教は三のものより成立す即ち(一)神の性質及ひ神人相互の關係等に關する知識上の信仰(二)惡を制し善をなす道德上の勢力及び(三)預言幷に約束と稱せらるゝ永生の希望是なり

一個人より離れて一個の宗教組織となれる基督教も亦三のものよりなる即ち(一)神の性質、愛情及び意志等の啓示(二)罪惡の刑罰及び其勢力より人を救出すと及び(三)人の新生即ち神と生ける一致をなし永生の狀態を完備するに至ると是なり

啓示、救拯及新生は基督教の要素なり此三者を基督教が主張せるとは疑ふ可きにあらずして舊約に預備せられたるものも新約に約束せられたるものも皆此三者に歸するなり創世記の發端即ち神は元始に萬物の根源たり(創一の一)との一言よりイエスの我を見し者は父を見し

なり(約十四の九)との言詞に至るまて基督教は神の存在、性質、及意志の啓示たるなり

而して又惡に勝つべしとの元始の約束(創三の十五)より終に「神は其生み給へる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へりこは凡て彼を信ずる者に亡ぶることなくして永生を得せしめんが爲めなり」(約三の十六)との告示に至るまで基督教は「凡て信する者を救はんとの神の力」(羅一の十六)たるなり而して又死の禍、生の福に關する創世の告示より「凡そイエスをキリストと信ずる者は神によりて生れ且つ世に勝ち且つ永生を保つ」(壹約五)との積極的の教理に至るまで基督教は信じ從ふ者に永生を約束するものなり以下説明せんとする所は學術的の穿鑿法を以て基督教の勢力によりて顯はれたる或る顯象と基督教の或る約束とに應用し而して基督教は果して眞實なるや否や其約束にして果して眞

實ならば必ず之を成就すべき基礎を有するや否やを査定せんとするなり

第壹章　啓示

基督教は神の存在、性質、愛情、權能及ひ意志の啓示たるとを主張すれども學術は主張の眞實なるを證し得るや否や學術なる者は其普通の意味に於ては此主張を可否すると能はざるものなり蓋し學術は依て以て基督教を量るべき神に關する直接の智識を有せざればなり

學術は顯象を觀察して其源に遡り手に觸れ目に見ゆる限り其第一源因まで探究するものにして各所爲を其先行の原因に歸因せしめ各性質を其下層にある物質に歸着せしむ其研究の極度に達すると早く從て智識の盡くるとも亦速なり故に學術は直接に神の知識を得ると能はざるものなりとす、よし望遠鏡を以て天を通觀し星辰を視察すると

ありと雖も天を造り其中に星辰を排置せし存在者を發見すると能はず又は「スペクツロスコープ」を以て光線を分解すと雖も衣の如く光を以て自己を覆ふ所の存在者を發見すると能はざるなり又雷鳴を聞きて其最近因に歸着するとを得ると雖も人の精神に語り給ふ存在者の一層微かなる聲音を聞くと能はざるなり此の如く學術は直接に神を知ると能はざるが故に基督教を量る可き標準を有せざる也然れども若し謙遜に眞實に自己の方法と結極とを守らば間接に神を知るとを得べし假令ば天に輝く顯象を觀察して之を電氣に歸因す是其終極の源因に與へたる名稱なり又或る顯象の性質を觀察して之を物質に歸着せしむ是其性質の附着する物躰に附與したる名稱なり此の如く學術は意匠ある顯象を觀察して之を智識あり意識ある原因に歸せしむるとを得るが如し故に諸受造物には到底爲し能はざるが如き意志あ

る運動を見るときは之を一の智あり意ある原因に歸し以て之を神と名づくることを得べきなり勿論是唯間接に神の一部分を知るのみなり此の如き方法により基督教の顯象を觀察せば必ず其原因を神に歸せざるを得ざるべし猶此他にも學術を基督教研究に用ゆるの方法あり之れ比較學にして人の能く知る所なり即ち比較解剖學、比較生理學及ひ比較原語學等の如く諸物に貫徹せる根本の法則及關係を査定せんとする者なり假令ば二箇の異國語の其源を同くすることを知るには猶他の一國語を基として之を知るとあり此の關係は類似法によりて知らるゝなり又一片の動物の骨を以て其動物の種類を定むることを得るは骨骼の關係により構造の大小を制定する方法によるものにして又之によりて其種屬部門をも定むることを得べし此く關係を論する學術ありて其關係ある物の一部を以て他部を推測す若し推測し能はざるときは其他部の發見せらるゝときに之を證明するものなり假令ば人海邊を歩行して鰭を拾はゝ則ち水に關係あり水によりて生命を保てる動物の一部たることを推定すべし又山邊を歩行して翼を拾はゝ則ち空氣に關係あり空氣によりて動き且つ生くる動物の一部たることを推定すべし假りに目と光とは關係なきものと考ふるも他の世界より光を知らざる者來りて暗黑に棲む所の動物に目あるを見而して後に其動物の光の中に生活するを見ば彼は必ず目と光は關係せるものにして其關係のみを以て論ずるときは兩者は相互の爲めに設けられたることを知るべし夫れ動物躰の各機器にして其躰内にて相關係するとなきものは躰外にて相關係するものなり人心の欲望は其之を滿たしむるものと相關係し全く滿足せらるゝときは滿足せしむるものと滿足せしめらるゝものとの二者共に實在することを知るべし故に關

係を論ずる科學は一の關係ある部分を以て他部を推測するか或は其他部の發見せらるゝとき之を證明するものなり赤兒は目を有して世に生る之と相關するものは實に光なり赤兒は耳を有して生る其聽覺器に震動を傳ふるものは實に之と相關するものなり而して又赤兒は空腹を感ずるの構造を以て生る其空腹を充たし赤兒の生命を保たしむるものは實に其慾望と相關するものなり男子は自然に有する男性のみにては不完備を感ずるものなり其心情を全ふすべき女子の愛は實に其慾望と相關するものにして夫婦は互に相關係せるものなり人は自から友愛を欲するものなり此の慾望に適應する社交は實に之と相關するものなり

學術は各慾望に對する適當なる關係物を悉く發見すると能はず然れども其慾望に適應し之を滿足せしむるものゝ發見さるゝときは學術

は則ち其慾望を滿足せしめたるものが其關係物たることを確定するなり、

學術の穿鑿法にして基督教の眞理に應用せらるゝものは關係法の範圍内にあり凡そ宗教心ある人間以下の諸生物に就て類推するに生物にして食慾需要或は不完全なるとの存するは即ち其外部に糧食供給或は完全ならしむる原因のあるべき明瞭なる證據なりとす

是によりて考ふれば人の宗教心に相關係し其靈性上の需要を滿足せしむべき所のものなかるべからず是即ち基督教ならずや今少く之を解説せんとす

(一)人は實に宗教的動物にして崇敬恐怖或は信仰を起さしむべき至廣絶大なるもの及び權能、智惠、愛情等に對し伏して禮拜をなすものなり人は何物を拜するやと問はゝ歴史は答へて曰はん、自己の手にて作り

し肖像、偶像及び自然になりし木石、山川、日月、星辰、禽獸、蟲魚及ひ神と崇めらるゝ人間、肉躰を離れし靈魂、自然及ひ眞神を拜すと然れとも此答は歴史的なれとも哲學的にあらず淺薄にして深奥ならざるが故に再び問を起して人は何を拜するや即ち人の思想及び感情に適應するものは何ぞやと問はゞ人に崇拜心、恐怖、信仰或は愛情を惹起し感激せしむるものは禮拜する物躰自身に存するにあらずして其中に含まるゝ靈に存するなり人の偶像を恐怖するは蓋し彼に權能の精神ありと想像するが故なり神を禮拜する所以は神は智識を保ち權能を有すると想像するか故なり凡そ神を畏れ其權能を信仰し之に祈禱し其怨恨を避け慈悲を受けんが爲めに諸の供物を献ずるは最下等の禮拜式の要素たるなり而して一層高等なる宗敎にては神聖、智識、正義、愛情及ひ恩惠等を以て其禮拜の目的となすなり

夫れ基督敎の啓示する所の神は全く人性の宗敎心に適應せるものにして即ち永遠不滅見るべからざるの靈なり而して知らざる所なく能はざる所なく又在ましゝる所なし且聖にして智、義にして善なり、愛あり憐あり慈悲あり恩惠あり、萬物の創造者にして萬物の保護者なり、而して凡そ善なる全き恩賜の施與者なり、宇宙を治むる王にして己の意に從て萬物を治むる者なり、而して萬物に善を與へ且柔和なる憐を加ふ人の亡ぶるを喜ばず之を罪の中より救はんとを欲し給ふなり、而して又最上の審判者にして惡者を罰し義者を賞すべし、彼は主たる神にして憐と惠あり、忍耐强く善と眞とに充ち無數の人に恩惠を施し不正不義及び罪惡を赦し給ふ然り而して愛を以てするも惠を以てするも到底心服改悔せざる所の罪惡を放免するとは決してあるとなし、神は凡て人の行に從て義しき審判をなす者にして眞理に順はす不義につ

く者には報ゆるに恐と怒と患難辛苦とを以てし耐忍て善を行ひ榮光と尊貴と不朽とを求むるものには永生を以て報ゆべし(羅二の六、七)

基督教の神に關する全き智識と其智識に全く唱和するとは人心中にある崇拜心の各原素を喚起するものなり驚愕、尊敬、崇拜、讃美及び喜悅、恐懼、信仰及ひ愛情、順良、從順及ひ希望は凡て基督教の神によりて惹起され鼓舞せられ且つ完全にさるゝなり此事實は古來の所謂教會の讃美歌に由て證明せらるゝなり夫れ太陽の七光色も相混合せば純潔なる白色を呈するが如く崇拜の要素も總て相合するときは完全なる禮拜を生ぜざる可らず然り而して人の禮拜心の各要素を集合せる完全なる禮拜は基督教によりてのみ生ずるなり然らば則ち人の禮拜の思想と感情を惹起すべき性質、意志及び行爲を備ふる所の神は恰も魚の水に於ける、鳥の空氣に於ける、目の光に於ける、心情の愛に於けるが

如く人の宗教心に適應せる關係物にして永遠の眞理、無窮の實在者たらざる可らず

(二)基督教の神は或る靈性上の慾望を全く滿足せしむる者なり是亦以上の事實を證明すべし世界の宗教禮拜には二個の普通なるものあり即ち犧牲及び祭司の中保是なり犧牲と祭司の中保とは其起源の何たるに拘はらず其目的とする所は神の怒を變へ其意を和げ以て其恩愛を得んとするに外ならず或は時として唯神の許によりて一事業をなさんとし又は神の補助を受けんとを願ふとありと雖も概して犧牲を捧ぐる者も中保をなす所の祭司も共に自己の不完全にして罪人たり惡者たることを彰はすものなり禮拜者の願ふ所は其之を得る道の如何に拘はらず神の稱譽と愛情を得んとするにあるのみ犧牲を以て神の怒を避けんとするは即ち神の愛を受けんとするなり之を以て罪を

贖はんとするは即ち救を望むなり之を以て補助を得んとするは即ち神の寛待と扶持を望むなり加之罪惡を懺悔して救拯を請願するは決して一時代一國民にのみ限れるにあらず萬國萬民の經驗する所也

夫れ基督教の啓示する所の神は此慾望に相適應するものなり神は恩惠に富みて罪人を惜み、忍耐强く、長く忍て罪人の悔改を待ち、救すとを好みて其心に罪を記臆し給ふとなく、憐ありて悔ゆる者、謙る者に愛を與へ、助を求むる者を助け給ふ者なり此の如く神は犧牲と祭司の中保によりてあらはるゝ人心の慾望を悉く適應せしめ給ふなり

(三)人の宗教的動物たる第三の事實も亦明かなり人は自から力弱く智足らずして他物に依頼せざるを得ず從て保護と教導とを要し光輝と勢力とを求め神託を祈りて勇氣と希望とを得んとす是即ち各人種各國民の祈禱によりて明かに知らるゝ所なり印度の「ベダ」に下の如き祈

文あり「インヂラ」よ父の子に與ふるが如く我等に智惠を與へよ惡漢無頼の徒をして吾人を壓制せしむる勿れ「クレアンテス」の讃美歌に曰く「あゝ神よ凡の惠を下し雷電をも服從せしむる神よ吾人を守りて過失より遠ざけ給へ吾人の心を新にし給へ宇宙の中にありて汝を導き汝を支ゆる者なる永遠の智惠に近かしめ給へ」と「ユリピデス」の光に關する祈に曰く「汝萬物の神よ人の心中に光を與へよ人は之によりて惡の根源を知り如何にして之を避く可きかを知り得るなり」と保護、教導、光輝、神託、智識、勢力等を請願する所の祈禱は世界萬國に普通なり基督教の顯はす所の神は吾人を觀察し其祈願を聞く所のものにして彼を畏るゝ者を憐み彼を信ずる者を愛し彼に依頼む者を保護し其攝理によりて之を導き且つ願ふ者には智惠を與へ力なき者には勢力を與へ又は凡の缺乏を滿たしめ不必要なる憂慮の重荷を取り去り而して苦に

耐へ業務を果たさしめんが爲めに勇氣ある心と强忍なる意志とを與へ、悲の時に慰め死の時にさへ惡に勝つべき事を約束し給ふ者なり凡て地上にありて人心に必要なるものは皆基督敎の神によりて滿足せらるゝなり他宗敎の敎ふる所の神の性質は人性の或る部分にのみ適應すと雖も獨り基督敎は人性の全部に適應する完全無缺の神をあらはすものなり人の崇拜心の各要素は悉く基督敎の神によりて惹起され靈性上の各慾望は悉く彼によりて供給せらるゝ者なり而して惡人の爲めには憐あり、罪人の爲めには赦あり、顯める者には平和あり、悲める者には慰あり、無智者の爲めには先導者たり、弱者の爲めには勢力にして欝悶者の爲には希望たり、而して死者の爲めには生命たるなり

凡て下等動物界に於ける關係適應の法則に準して考るに食物及び水の身躰に於けるが如く又光の目に於けるが如く人心に必要欽く可らざるものは即ち生ける眞の神にして之を信ずる者には平和あり之を知る者には力たり而して之を愛する者には生命たるなり

第二章　救拯

基督敎は第二に罪の罰と其力より人を救ひ出すものなることを主張す天使の聲は呼て基督敎を「喜の音」と云ひ使徒の聲は宣べて「凡て信ずる者を救はんとの神の力なり」と云ふ而して學術は此の主張の正當なることを證明し得るや遁れ得らるべき神の怒及ひ避け得べき惡者に對する特別なる滅亡より避け得らるゝ道は果して存するや否やは學術の知り得る所にあらず又敎へ得る所にもあらず此の如きことは既に知れる事實によりて之を推測するか又は直接の啓示によらざる可らず然れとも世に罪なるものゝ存在して勢力を有し又幾分か罰の之に伴ふものたることは廣大なる科學にして之を見且つ知らざることなかるべ

し人の性質及ひ品行にしてて本人及び社會が共に罪する所のものあり嗜慾なるものにして人を色慾、放恣、惡德に沈ましめ遂に下等動物の如くなすものあり私慾なるものにして愛情の範圍を縮小し社會の分離を來たらしめ家庭の幸福を破り小兒の如き弱者を顧みず、人の生命財產、平和、繁榮を輕んずるものあり貪慾なる者にして富を得んが爲めには一個人の信用と名譽を捨て詭詐、壓制を用ひ他人の損害、困難を來らしむるものあり名を貪るものにして權力を慾望し其の目的を達し其希望を滿たしめんが爲には屢孤兒の涙と寡婦の哭聲を顧みず他人の創傷、生命を憐惜せざるあり又世界中には何れも人種階級の精神あり て侵す可らざる疆界を立て人間を各別に區畫するものあり罪にして人を墮落せしむるものあり社會を分離せしむるものあり人を强者と弱者とに分ち一方は壓制し他方は苦めらるゝあり而して四海兄弟

たると愛と正義を以て共和すると等(是地上の天國を爲すものなり)を全く出來得べからざるととなすものあり基督敎の起りしとき嗜慾、貪慾、貪名、憎怨及び猛惡の世に行はれしとを知らんと欲せば學者と雖も屢々列せし所の好酒家の宴席又は或る異敎國の宮殿にある娼妓にして女祭司たる者又は主人にして貪慾なるもの治者にして貪名なる者又は公共の愛心の缺乏せる者人の苦難に心を用ひざる者其他記載すべからざる罪惡及ひ劍客奮鬪の悲劇の如く猛惡にして且つ血を流すを之れ樂む者又は異敎の人民或は宗敎を互に憎み惡む者等を見るときは一目瞭然たる可し是等は現今も實に行はるゝものなり然りと雖も過ぐる十八世紀間に於て殊に現今に於て非常なる變化を來せしは主として基督敎の發達せし域內にありて全く基督敎の及ぼせし信仰と品行の感化によらざるはなし斯く基督敎は上來述べし如く惡事の

醫癒者たるとを主張すと雖も各人の信仰及ひ品行の何たるに關せず萬人を悉く救ふ可きものにあらず蓋し基督敎の勢力は魔術的にあらずして道德的なれば唯だ其敎理を信じ其精神を受け其主義に從ひ其約束の成就さるゝ事を望む者のみを救ふ者なりハクスレー氏曰く「苟も歷史を一讀せしものは人間歷史中の要素として基督敎信仰の必要なるとを感せざるとなく又基督敎にして亡ぶるとあらば充分眞正にして之に代るべき力あるものゝ起らざる可らざるとを疑はざる可し」と此言によれば基督敎は人の性質を善良ならしむるに大なる力あるものにして凡て他宗敎より優れると明かなり而して若し基督敎去らば他物起らざるを得ざるは自然の理にして人生の需要の然らしむる所なり此の代りに起るべきものとは何物なるやハクスレー氏之を云はず然れども充分眞正に、充分力ありて人の需要を滿たし人を高尙に

するに足るものゝ出來るまでは基督敎は人生の必要に適應せる第一位のものたるべきなり基督敎は過去にありて證明せし如く將來に於ても同く世界中の一大勢力にして人を罪の力より救ひ出し愛と義を以て之を統一するものなり基督敎の敎ふる神の怒來らんとする審判、罪の懼るべきと(良心の告ぐるが如く)神の愛より出づる罪の赦、義者に力を與ふると、永生の約束——是等のものは實に人の心靈上に最强の原動力となりて之を悔改と正義とに導くものなり然れども今論ずべきの問題は基督敎は善き生活をなさしむる原動力を有するや否やと云ふにあらずして實際此の如き生活を生ぜしむるとありや否やと云ふにあり基督敎の此の如き生活を生ぜしむることあるは一個人の性質、社會の情態、又人情、習慣、法律、制度等の變ずるによりて明かなり

(一)基督敎は其始めより一個人の生活上に驚くべき變化を生ぜしめた

り其經典中にも多く性質、生活、目的等の變化を記載せり今其一二を擧げんにパリサイ人の家にて或る罪ある婦人は其涙を以て基督教開基者の足を濕し自己の裝飾の爲めに買求めし膏を以て之に塗り而して其罪を赦され平和を得て歸れるあり(路七の三十六)又一人の稅吏あり人皆な彼を罪人と呼びしがイエスの感化を受けて後自ら約して云く他人の物を不義に取りたるとあれば四倍にして之を返し又貧人の爲めに己の財産の半額を與ふべしと(路十九の五)又最初の二人の使徒はアサリヤ人の不親切なるを見て天より火を下して之を滅ぼさんとを望み又彼等が理想せる政治上王國の來るときには共に高位を占めんと望み居りしが後日に至り其一人は自ら信ずる所の基督教の爲めに己の生命を棄て他の一人は廣大なる愛の教を說くものとなれり土地を有せる人にして之れを賣り其の價を携へて使徒等のもとに置き兄

弟等の用に供したるものあり(使二の四十五)又使徒パウロは人種の階級、宗教の區別に熱心なるものなりしが基督教を信ぜし爲めに凡ての物を捨て其感化によりてユダヤ人も異邦人もギリシヤ人も野蠻人も共に之を愛し萬人皆兄弟たるとを信ずるに至れり人々の嗜慾、貪慾、貪名、驕慢等は基督教の清淨、恩愛、謙遜、愛情等の感化によりて消失せり以上揭げたる者は初代に於ける基督教の特徴たりしが後世に於ても之に異なるとなし歷史家ギボン氏は決して此宗教に對し偏頗なるとなき人也氏の言に曰く「最も高名なる聖人も其受洗以前は最も放恣なる罪人たりしとは基督教徒の認めて耻とせざる所なり彼等は罪惡と迷信より出でゝ不朽の榮望を得たるなれば一身を投して正德と懺悔の生涯を遂げんと決心し完全たらんとするの願望は其心靈を主宰するものとなれり」と夫れ理學科學の力により情慾、罪惡等を捨つると能は

ざるものにして基督教の勢力によりて清淨、眞理等の中に高められたるもの決して少なからず此の如く生活を豹變せしむるとは古往今來基督教進歩の歴史を著明ならしむるものなり基督教國にありても古今惡人の存せざるとなしと雖とも是基督教徒に非るなり教會歴史中私利、嗜慾、貪慾及ひ貪名なるものにして時に教會の高地位を占めたるとも明白なる事實なり而して此の如き人は私利、嗜慾を滿足せしめ貪名の目的を達せんが爲めには其裝飾をパリサイ人の如くし其信仰は天主教徒の如く其外部の行狀は清教徒の如くなすもの也凡そ教會組織も他の團躰の如く敗德の人ありて自己の自由に之を用ひなば自ら腐敗すると必然なり然れとも基督教は唯之を知識する者の中に存せず之を愛するものゝ中にあるなり單に之を告白するものゝ中に存せずして其主義を實行する者の中にあるなり基督教を評價せんと欲せ

ば其精神を有せる人即ち歴史家モットレーの云ひし如く「教會歴史の暗黑の世にありて餓たるに食はせ裸なるに衣せ强奪殺人の世にありて基督教々理を實行し暗黑の中に捨てられたる者に限なき愛憐を施し其行爲は假令人間の歴史に見へずと雖とも必ず神の書冊の一二葉を占めたる如き人物」によりてなすべきなり基督教を判斷するには一個人に於ても社會に於ても何の時代にありても丸て其輸入せられざる以前の狀躰と比較するは正當にして已に進歩せる時代と比較す可らず教會歴史も宗教的生活の傳記も又許多の人の經驗、觀察も皆な同しく證明して云く基督教は之を愛し之に生活するときは人を罪の力より救出すものなりと基督教の勢力は唯性質の變化によりて知らるゝのみならず其感化力の下に養はれ其眞理によりて生活する人々によりて亦見はるゝなり花を生ぜしむる園庭は善なり而して其以前雜

草の繁茂し居りしや否やに關するとなし此の如く其眞理を信じ其主義に從ふ所の小兒の中より清潔なる婦人と正義なる男子を生ぜしむる一の宗教は實に善なりと云はざるを得ず、よし基督教會内に成育したるものにして憫れにも全く基督教徒の生活を失へるものありとするも其墮落は基督教眞理の致す所にあらずして眞理より遠ざかり自ら基督教の生活を維持せざるが故なり基督教國にありて人若し其教理を愛し其主義に從ふことを一般に知らるゝとあらば其者の名譽と信用の增さゞるとあらざる也

(二)基督教の實際の勢力は社會に及ぼす結果によりて亦明かなりとす不道德にして卑賤なる大市邑に愛ある生ける基督教を輸入せるにより外部の情態に著しき變化を來し内部住民の性質に驚くべき變化を來したると屢なり色慾放恣は減少し生活上の快樂增加し貧人は安心

を得而して人民の心靈上道德上の生活大に高められたり諸島國に基督教の入りし爲め此の如き變化及び猶一層大なる結果を生じたるとは少とせず大平洋諸島の歷史に於て見るが如し凡そ一切の情態同等なる二箇の社會にして一方は他方よりも基督教の實際に行はれて人民の生活上に力を占むると多しとせば其一方は必ず他方よりも優れるものにして二三代を經過する中には其道德の進行は一方は上に向ひ一方は下に向ふを見るべし又基督教を追放せし社會の衰微するとよりても基督教の勢力あるを知るべし即ち亞細亞歐羅巴の諸國合衆國の諸處に於ける教會の衰微道德の敗頽の如き是なり草木は生命を失へば則ち枯る是に於てか從前の花を開き果を結びたるは全く其生命に基づきしとを知る此の如く基督教を失ひたる國民の衰微は是れ基督教の勢力あるを證するものなり而して外貌にのみ基督教を信じ

之に依頼むと恰も魔術の勢力の如くなして遂に得る處なき國民少とせざれども其道德上の力に依頼み其主義を實行したる國民にして其性質の改良せられざるもの殆んど稀なり是れ歷史上明白なる事實なり

(三)基督敎の勢力は國民の感情法律及び習慣の變ずるによりて亦た明なりとす是等の變化は急激ならず蓋し制度及ひ人民なるものは通常保守的にして既に存するものは其既に存するの故を以て之を信ずるが如きもの多ければなり而して社會の感情情態及び人民の習慣を變ぜしめたるものは基督敎以外に其原因なしと云ふ可らず然れども最も善く最も益ある變化は先づ基督敎の主義より出で其進歩と共に進歩し其流行と共に流行したるとを考ふれば基督敎は是等變化の第一原因たると明かなり或人曰く「基督敎國にあるものにあらずして歷史

上永續すべき進歩なるものはあるとなし」と

此の小冊子にては世界中基督敎の及ぼせる變化の歷史を悉く記載すると能はず又此の如き歷史を掲くるは聰明なる讀者に必要ならざるが故に唯二三の變化を掲示せば足れりとす

始めて福音を宣傳せし人々は殊に偏見を有せし人種にして救は自己の國民にのみ限れるものと信じたり或は其偏見を全く破る能はざりし者もありしとするも今特に注意すべきは此偏見を破りて神の愛の宇宙的なると人間の四海兄弟たるとを信ずるに至りし者は實にユダヤ人の改宗せる基督信者たりしとなり此の如き變化は絶へず基督敎のなせる所にして世界中許多の勢力に勝りて人の偏見を除去し階級を破壞し而して兄弟の愛を以て人間を連結せり今日印度に於ける最上族ブラマン人は十八世紀以前のユダヤのパリサイ人の如くに其基

督教信徒となるや自國民を區別し來りし階級の精神を捨て萬國人を等しく愛するに至れり初代の基督教信者は公平なる慈愛を實行し人をして「キリスト降世以前の世界は愛なき世界なりき」と云はしむるに至れり世上乞食に施し貧者に與ふるが如き一個人の愛情は常に存せり然れとも基督教は之に勝りて廣く人類の愛情社會の慈善を盛にせりウルホルン氏は其著「初代基督教徒の愛情」の中に述て曰く「從來世界中に知られざりし新奇なることは基督教社會に於て慈善の爲め一定の組織の起りし一事なり其の目的とする所は唯一時の助を以て貧人に施すのみならず全く貧てふものを打ち亡ぼし將來之によりて苦む者なからんとを望めるなり」と異教國に於ても慈善の恩惠なきにあらずと雖とも基督教は惡を去り疾を痊し而して善をなさしむる所の愛なるものを起さしむ「ユリヤン」帝は質朴に告白して曰く「基督教道德

の助けによりて偶像教を恢復し其實行によりて得たる利益と稱讃を基督教徒に歸せざるとを望む」と基督教は世界に養育所なるものを建てたり其佛語ホテルデヤ(神の家)は其起原を表彰するものなり此外種々の學校ありて其目的とする所は不幸者に供給し苦める者を助け且人に自助の必要を教ゆるものなり而して基督教信者が最初個人の資本を以てなせし事業も今や大に公共の資本を以てなしつゝあり此種の行爲は基督教社會を貫徹せり

基督教は人間の自然の權利を保護するに力あり羅馬帝國は其最も盛なる時代に在りて一億二千萬の人口の內六千萬人の奴隷を有せり而して此の奴隷の情態と之に幾分の自由ありしとに付て如何に辨護するものありとも世界の最大帝國の人民にして其半數が他の半數の所有物たりしとを見れば則ち悽愴たる戰爭ありて囚人を奴隷にしたる

のみならず人權を重んずるの念なかりしとを知るに足る基督教は世界各國に革命の風俗を注入せしにあらずして革命の精神を注入せり而して其進歩は遲々たりと雖とも世界は漸々此精神によりて革命されつゝあり女子の貞操、男子の自由及ひ人間の生命は基督教の勢力により一層神聖に一層安全にせられたり基督教國に於て猶ほ帝王なるものありと雖とも其人民の生命、思想及び財産に及ぼす所の權力は大に縮小したり貴族なる者もありと雖とも其名譽を得るは品性の貴きにのみよりて得らるゝなり社會に階級の如きものあるも其各階級の權力は正當に保護せらるゝなり而して基督教國全躰の傾向は各人の自然の權を認むるにあり唯に權利のみを主張して義務を拒むものなきにあらずと雖とも義務は必らず權利と合併して來たり等しく認められ等しく實行さるゝものなり之れを要するに世界中何處にても基

督教主義の行はるゝ處は常に善を生ずると明白なりとす

(四)基督教の特殊なる勢力は現世紀に於て殊に秀てたる傳道の精神及び運動によりて知らる可し基督教國に入り來る外國人は皆自己の爲めに學ばんとして來たるなり然れとも傳道者の他國に行くは他人の爲めに教へんとするなり唯利を得るを目的として或は基督教國に來るものあり或は基督教國より他國に出るものありと雖も傳道者に於ては得んとするにあらずして與へんとするなり基督教傳道の主意は愛なり其精神は人に事ふるにあり其希望は善をなすにあり其目的は眞理の智識と正義の生活とを以て人を惠まんとするにあり傳道によりて基督教の神意現はれ其結果によりて神力の顯はるゝと過ぎし十八世紀に於て通覽し得る所なり

(五)最後に云はん基督教は人々を兄弟の關係によりて連らならしめ地

に平安、人に恩澤を與へんとするものなり世に惡事なしと云ふにあらず然れども從前に比するに之を減小せしめたり今尚ほ戰爭なるものあり然れども戰爭は已に大國の主要たる行爲にあらず平和會議、國際上の困難を定むる講和會及び商賣の平和を目的とせる萬國互市場の如きは基督敎文明の進歩せる結果なる可し夫れ基督敎の目的及勢力は人を罪より救ひ人の自然の權を保護し人を兄弟として連結し地上に平安を來し人に恩澤を施すにあり是即ち人間の必要に適應せる宗敎にして神の實在、生ける眞理、確實たる勢力なり其行はるゝ所には人に最上の善を與へ地上に天の王國を建設するものなり

第三章　新生

基督敎の第三の肝要なる要素は再生或は新生の敎理なり之を畧說すれば下の如し基督敎は之を信ずる者には道德の感情を惹起し其愛情

を高め思想を廣くし目的を高くせしめて以て人をして生ける神と眞に和合せしめ以て永生を與ふるものなり基督敎開基者の天職は他に如何なる目的を有せしに拘はらず畢竟人に此生命を與へんとするにあり彼に生命あり(約一の四)父自ら生命を保つが如く子にも之を賜ふて自ら生を保たしめたり(約五の廿六)生ける父彼を遣はし父によりて彼生けるが如く彼を食するもの(即ち彼を衷心に受くるもの)は彼によりて生くべし(約六の五十七)彼は生ける「パン」なり(約六の五十一)彼は生を與ふる靈なり(約六の六十三)彼は葡萄の幹にして彼を受くるものは其の枝なり(約十五の五)子を信ずるものは永生あり而して子を信ぜざるものは生命を見ざるべし(約三の三十六)子をもつものは生をもつ而して神の子をもたざるものは生をもたず(壹約五の十二)何となれば罪の價は死なり然れども神の賜はイエス、キリストによりて賜はる永生

なればなり(羅六の二十三)

茲に三々の問題を起すべし曰く再生は學術上出來得べきとなるや曰く再生は實在物たるの證跡ありや曰く基督教の教ゆる靈魂不滅說の基礎は永生をして學術上出來得べきものとなすや今之を解說すべし」

(一)第一の問題なる再生は學術上出來得べきとなるやに對しては之れ學術上出來得べきものなるのみならず學術上然るべきとなりと答ふべし吾人の熟知する生物は其の發生のとき完全なる躰を有せず唯胚子にて存在し其發育して完全なる生命を得るに至るは外部の情態即ち關係物に依れるなり麥粒櫟實の如き種子は死物にあらず生物なり然れとも之を生ぜしむる所の土地と太陽とに適應して其潛勢力を發出するにあらざれは常に種子のまゝにて存するなり動物の卵は生物なり然れとも之に合致するものありて其力を發生せしむるにあらざ

れば決して他物に變ずるとなし下等動物は初期の形狀より漸次或る情態に適應せる變化を經而して最上の形狀に達するなり蝶にありては最も明瞭なりとす卵內の鳥及子宮內の胎兒も共に潛生命即ち將來成長すべき生命を有す然れとも其將來の生命なるものは一層廣大なる場所に出て土地空氣大陽等に合致し而して其未育の機器及ひ勢力の發生によりて得らるゝなり然らざれば其機器及勢力は全く不完全にして消滅す可きものなり

是と等しく人心中に潛伏せる夫婦間父子間の愛情の如きも或は他の精神に觸れ或は他の愛情によりて惹起され之に合致するものにより て完備せらるゝにあらざれば遂に發育するとなく狹隘なる生命の中に終るものなり人の智識的及ひ社會的の性質も或は甚狹隘なる範圍內に止まるものあり或は之に適應せる所の心靈的感情的の勢力によ

りて擴張され高尚にさるゝものあり凡そ生物には初期と後期の形狀あり出生に第一第二の別あり下等なる少許の適應物を有する第一王國と高等なる許多の適應物を有する第二の王國とあり是皆自然界に於ける普通の事實なりとす新約聖書に敎る所は第一の人(アダム)は地より出でゝ生ける魂(ソール)となりたり故に天より出てゝ生命を與ふる靈(スピリット)なる第二の人(キリスト)(前哥十五の四十五、四十七)によりて生かさるゝにあらざれば彼は神の靈を受け神の像を保ち而して天國を嗣ぐと能はざるべし是れ即ち以上述べ來りし植物、動物、人心及び社會に關する學術的事實と全く一致する所なり人は天より生れざるべからざると、肉によりて生るゝものは肉にして靈によりて生るゝものは靈たると、(約三の六)靈のものは先きにあらず肉のもの先きにありて靈のものは後にあると(前哥十五の四十六)等の基督敎敎理は全く下等生物に於ける

種々なる情態勢力及び事實と符合するものなり

基督敎の新生或は再生の敎理は人々に新しき生理的機器或は勢力の與へらるゝを謂ふにあらず外より來り上より下る勢力によりて感情、良心、愛情及び意志の全く神と合致するを云ふなり恰も雛鳥の卵を出るや其機器は空氣及日光と合致するに至るが如し再生せし人の良心、愛情、希望、念慮、意向及ひ目的の向ふ所は目に見ゆる宇宙よりも一層高き王國にあり人間よりも一層神聖なる存在者にあり地の生命よりも大に秀でたる生命にあり即ち人は再生によりて全く新たなるものとなり故に人生にありて右の如き試驗は決して學術上出來べからざるにあらず許多の類似物によりて此の如き事實を推測し或は敎示せらるゝときは之を確定するとを得べし

(三)第三問再生は實在物たるの證跡ありや否や答て曰く靈の生命の存

在る他の生命と同等に證明するとを得べし生命の存在と品級を示すべき二物あり感情(イリシビリチー)と慾情(ハンガー)是なり感情は外部の刺衝に感ずるものを云ひ慾情は之を滿足せしむる物品の缺乏し之を慾望するとを示すものなり下等動物中には物の理學的性質を感得して道德的性質には無感覺なるものあり是等の物は道德的原素を缺くと明かなり又理學的及道德的性質を共に感得するものと雖も或る道德的性質を缺くものあり例へば敵を殺さんとて力を盡し或は之が爲めに己の命を失ふが如きものゝ所行を賞讃する人々にして、純粹なる道德上の精神によりて自ら勉めて怒を忍ぶが如き者の行爲には少しも感覺なきものあり人の愛情、思想及び目的にして全く目に見へ手に觸るゝ現世の必要物にのみ關するものは肉の人、世の人と稱すべきなり蓋し其需要の區域は肉と世にのみ限るを以てなり

之に反して神に關する思想を以て其心を滿し天にある神の榮光、地にある神の善、歷史に顯るゝ神の力、最後に成就すべき神の目的の進行等にのみ注目するものあり神の愛を慕ひ其敎導を求め彼に事へんとを願ひ彼の爲には肉慾を棄て世にある成功を犧牲にし而して目に見へず未だ顯れざるものを望んで生活するものあり心靈上の感情即ち神の實在と神人の關係とに關する感情の甚だ銳敏なるあり心靈上の慾情即ち神の光輝、神託及び賞讃を望むと甚だ强きものあり此の如き者は靈の人、天の人と稱すべきなり其精神は神に關する思想によりて生宰せられ其心靈は神を愛するの愛心によりて生かされ而して其意志は神を喜ばしめんとするの希望によりて指導せらるゝなり人如何にして此の如くなるや自己の意志によらず直接神の力によりて然るや又は或人の用ゆるが如き抵抗力なくして隨意に神の力の補助を受く

るによりて然るや是れ此の書に於て論ずるの要なし此書の究めんとするは世に再生人と稱するに足るべき感覺、希望、感情、意志、愛情、行爲等を有し神に關する思想の其心中を主宰するが如き人ありや否やにあり而して歴史上の事實により人々の觀察によらば此の如きものありしと明なり此の如きものゝ性質と生活とを學術的に説明せんと欲せば必ず再生と靈の生命との實在を認めざるを得ざるなり[illegible]人心の愛情目的及び希望に各自差異あるは論を待たず而して其差異の存する人々の智識の發達社交上の愛情及び普通の行爲に至りては殆んど同等なる者なり是に由て考ふれは其生活の初期に於ては常に相類似するも發育を遂げし後に至りて差異を生ずるや必せり人の胎内にある初期の生命の如きは他の哺乳動物と大に異なるとなしと雖も生長せば其差異の莫大なると實に驚くに堪へたり再生人の外貌の

如きも世人と相類似すと雖も神は其心の主たるを以て後如何になるべきや未だ顯はれずと雖も其生命なるキリストの顯はれんときには必ず彼の如くなる可し(壹約三の二)即ち萠芽は開きて神の美と榮を顯はすなり此の如く肉より出でゝ人類に屬するものと靈より生れて神に屬するものとの根本的區別をなすが如きに至りては基督敎は學術的なり變化變遷する所の自然に合致する肉の人と不變不朽なる神に合致せる靈の人との明瞭なる區別をなすを以て考ふれは基督敎は學術的なり眞理に順はず不義に就きて惡をなし神より忿と怒と艱難辛苦を受け遂に亡びんとする人々と、耐へ忍て善を行ひ榮光と尊貴と不朽とを求めて神より永生を受けんとする人々の運命の區別を敎ゆると(羅二の七)を見れば基督敎は實に學術的なるものなり[illegible]

(三)第三問基督敎の敎ゆる靈魂不滅説の基礎は永生をして學術上出來

得べきものとなすや否や今之が解答をなすべし

學術は未來を見るの視覺なく又知識なきが故に基督教の教ゆる永生の教理に付ては唯其基礎とする情態を判斷して或は足れりとし或は足らずと云ふのみなり

ロッツエ曰く「物の存在は關係にあり又存在するものと存在せざるものとを區別するも關係にあり換言すれば存在とは關係あるを謂ふものにして物の覺知せらるゝとは即ち一種の關係なり故に物として關係を有せざるものなし即ち存在するものは皆な關係を有するものなり」と是實に宇宙間の萬物即ち孤立して存在すると能はざる者に悉く通用すべし

ダルウィン氏曰く有名なるキエビアの主張する物の存在の要態に關する說明は全く自然淘汰の原理中にあるものなり」とダルウィン氏の說によれは物の存在の要態に關する法則は「ユニチー、チヴ、

タイプ」(父子は必らず同種なる說)よりも一層力あるものなり何となれば凡そ物の存在し又完全になるは全く其存在の要態に合致するものあるに歸因すればなり

スペンサー氏曰く「完全なる合致は完全なる生命なり若し生物の包圍に少しも變動なく唯其生物自身に適應せる變動のみにして且其變動に對向する所の力にも亦少しも變ずるとなきときは則ち永遠の存在及ひ永遠の知識となるべし」と科學者ドラモンド氏曰く「近世の生物學は基督教信仰の此主要なる眞理を辨證說明するものなり故に永生に關する此の科學的說明は實地的辨證的宗教學の一大利益たるなり」と以上述べ來りし有名なる科學者哲學者の說明によれば何者にても完全永遠なる包圍にありて完全永遠なる適應物を有するときは即ち永生をなすなり即ち其性質に於ても時間に於ても共に永遠なる生命を

云ふなり然り而して此適應物は目に見へ且變遷すべき宇宙の内にあるとなし「目に見へざる宇宙」てう書物の記者曰く「目に見ゆる宇宙は有限のものなるを以て全く消滅するとなくとも必す無生命の者と化すべし宇宙は美麗なる外衣の如し決して不滅物にあらず吾人若し不滅を得んとせば之を他に求めざる可らず」と其他とは何ぞや是れ實に基督教の吾人に見せしめんとする所のものなり目に見へざる宇宙を記載せる聖書の記者は同く説て云く「天と地は衣の如く古び外衣の如く捲揚げられ變化するとあり滅亡するとあり」(詩百〇二の二十六)然れども唯一の存在者ありて其齢盡きず永遠に存在し永久同一なるものなり(希一の十二)是即ち獨一の眞神にして之を知るは永生なり(約十七の三)世も其慾も消失すべし然れとも神の意に從ふものは永久に存在すべしと是等を見れば聖書は實に學術的なり夫れ神人間の愛情、思想、意

向及行爲に於ける活ける交通及び一致は即ち基督教永生の基礎なり」人は肉と靈とよりなることとは國語の證明するが如く全世界普通の信仰なり而して靈は肉より生出するものとなすは是れ未だ嘗て證明せられざることとなるのみならず通常何處にても信仰せられざることなり腦髓の化學的成分を悉く手に取るも思想なるものは其中にあるとなし電氣の刺激を以てせば死者の神經系統は運動を起すとありと雖ども自覺心及意志の證跡は少しもあるとなし即ち靈魂なきなり靈魂は肉躰以外に自己の生命を有せる獨立の實躰なるや又は肉躰に生命を與へ之を組織し之を維持する所の實躰なるやは今之を決する必要なし夫れ知覺神經なるものありて外界より感動を送るが如く運動神經なるものありて中心より外界に感動即ち意志を傳ふ而して物質的現象及物質的存在物のある如く心理的現象及心理的在存物あるなり

リカント氏曰く「試に或る生ける人の腦髓に烈しき動作を與へ而して之を驗するに至極完全にして腦質中にある各種の變化をも見得る所の機械を以てば如何なる物を見得べきや唯物質的化學的の分子變動を見るのみにして其他には外部より見ゆるもの少しもなかるべし而して其人自らに於ては此の如き分子變動をも見ると能はずして全く之と異なる自覺、思想、感動等を有するのみ外部より見れば唯運動あるのみ內部より見れば唯思想あるのみ一方には物質的現象あるのみにして他方には心理的現象あるのみなり」と物質的及化學的勢力及現象も其主要なる性質に至りては實際識る可らずと雖も一たび其存在を許容せば則ち其の種々の形狀は悉く互に變化するを以て其相互の名稱を以て之を顯はすとを得べし其名稱は皆な運動に關するものなり之に反して心理的勢力と心理的現象に至ては如何なる想像力を用ふ

るも之を說明すると能はざる可し

換言すれば恰も物質的原素たる肉躰が自己の運動及法則を有するが如くに心理的原素たる自覺心即ち靈魂も自己の運動及法則を有せる一個の實躰なるなり肉躰は其心理的原素を失へる後も尙其形狀を保ち又幾分か運動する如くに此心理的原素も物質的原素に關するとなく全く獨立し自己の性質によりて存在し運動するとを得べし有脊動物の腦髓を除去するときは時として反射運動の力殘るとありと雖とも意向及自動の力は全く失はるべし例へば蛙の腦髓より腦葉を除去せば其他の腦部分存するも意向の力は全く失はる可し之に適當なる刺激を用ゆれば匍匐し跳躍し且つ浮泳すべし其運動は通常の如しと雖も外部の刺激あるにあらざれば決して運動せざるなり刺激を用ゆるときは動き刺激止むときは止るものにして意向より出つる運動は

更にあらざるなり此の如き蛙と完全なる蛙とには二樣の差異あり前者は外部の刺激によらざれば決して動かざるも後者は意向によりても動くなり前者は一定の運動をなすも後者の運動は不定にして意志に從て運動を變ずるものなり蛙の脊髓のみ存するときは之を刺激せば或る反射運動を起すとありと雖とも其運動を指揮する勢力は視神經小腦葉及圓髓の除去せらるゝと共に消失すべし鳥の腦の半球を除去せば全く意向と知識の徵候を失ふべし哺乳動物にありても之に異なるとなし刺激を受るときは通常の運動をなすと雖も知識の現はるゝとなく之を棄て置けば其死に至るまで偶像の如く決して動くとなきなり之を要するに動物は神經の一部分を除去するにより自覺と意向の力を失ひ而して全く不動となりたるときは外部より理學的刺激を與へて其動物躰の構造と法則とに從へる理學的運動を生ぜしむる

とを得べし若し理學的包圍にして自覺を失へる動物を亡すとなく之を無窮に保持し且つ刺激し得るものあらば其動物は自覺なしと雖も形躰と動作は永遠に繼續すべき理なり今要求する點は自覺原素が物質的原素中に働を止めたる一事なり夫れ動物の自覺原素は已に其働を止めたる後に於て其理學的原素のみが理學的包圍によりて其存在を繼續し且つ運動するとあるを以て考ふれば心理的原素即ち靈魂も其理學的原素を失へる後に於て心理的包圍によりて其存在を繼續し且つ運動するとあるべきは當然の理なり其然るべき所以は證明すると難しと雖とも前者によりて後者の然るべきを推知すべく然して其確實なるとは唯默示と信仰によらざる可らざるなり然れども人は心理的包圍の中に存する所の心理的原素なるものを有するとと其適應物は永遠のものたるを得べきとことを許容せば則ち永生の要態は學術

に合へるものたるを知るべし

是れ實に基督教の教ゆる所たるなり而して基督教は人は元來世によりて生くるものにあらず神によりて生くるものなることを教ふ「彼にありて我儕生き且つ動き且つあるとを得るなり」(使十七の二十八)基督教は人に靈肉兩性あり靈は肉よりも優り且つ獨立の存在物たるとを教ふキリスト曰く「身(肉躰)を殺して魂を殺すと能はざるものを懼るゝ勿れ唯汝等魂と身とを地獄に滅ぼし得るものを懼れよ」(太十の廿八)と基督教は死後此靈魂の存在を教ふイエス將に十字架上に死せんとするときに曰く「父よ我靈を爾の手に托く」(路二十三の四十六)と使徒パウロ教へて曰く「基督信者の外なる人は日々に亡ぶるとも內なる人は日に新なり」(後哥四の十六)又云く「外なるものは壞るゝとも內なるものは神と共に生く」と新約聖書の所謂永生なるものは神を知り之を信じ其

意を行ひ之と一致するものゝ有するものなり新約聖書の教理によれば目に見へ手に觸るゝ世界は過き去り之に一致するものは即ち一時のもの變化するもの死亡するものに一致するなり然れとも世界を造りし神は永遠に生くるものにして愛により之と一致するものは永遠無窮にして死するとなく永生を保ち限りなく生くべし此の如く基督教は其信者たるものに永生の基礎と要態を與ふるものにして實に學術の教ゆる所と一致するものなりスペンサー氏は科學の名義の中に說て曰く「完全なる合致は完全なる生命なり」とヘルマン、ロッツェは哲學の名義の中に說て曰く「靈魂不滅に關しては概して下の原理は正當なるべし曰く一たび生じたるものにして宇宙を組織する所の聯絡中にありて不變の價値を有するものならば必ず永遠に持續すべし」と博士ドルナルは神學の名義の中に說て曰く「凡て神の生命の人に交通する

は唯キリストによりてのみ其信徒にあたへらるゝ者なり是に由りて靈魂不滅の出來得べきと其運命とを認識するとを得べし」と使徒ヨハネは基督教の名義の中に説て曰く「神は窮りなき生を以て我等に賜ふ此生命は乃ち其子にあり是其證なり子をもつものは生命をもつ神の子をもたざるものは生命を持たず」(壹約五の十一)「神の子已に來り我等が眞理者を知るの智惠を我等に賜へるを知る我等眞理者にあり即ち其子イエス、キリストにあり彼は乃ち眞神又永生なり」(壹約五の二十)と而してイエスは神の名義の中に説て曰く「神は其生みたまへる獨子を賜ふほどに世の人を愛し賜へりこは凡て彼を信ずる者に亡ぶるとなくして永生を得せしめんが爲めなり」(約三の十六)と靈魂不滅の要能にして學術が要求し哲學が充分なりと宣言する所のものは蓋し基督教によりて與へられイエスによりてなさるゝ再生によりて成就さるゝなりイエスは即ちキリストにして永生は彼の中にあり又彼より出るものなり

此書は賣品にあらず傳道の爲め入用の人々は
下名へ申越しあらば呈上すべし

東京芝區二本榎西町二番地

マクヤ

18
422